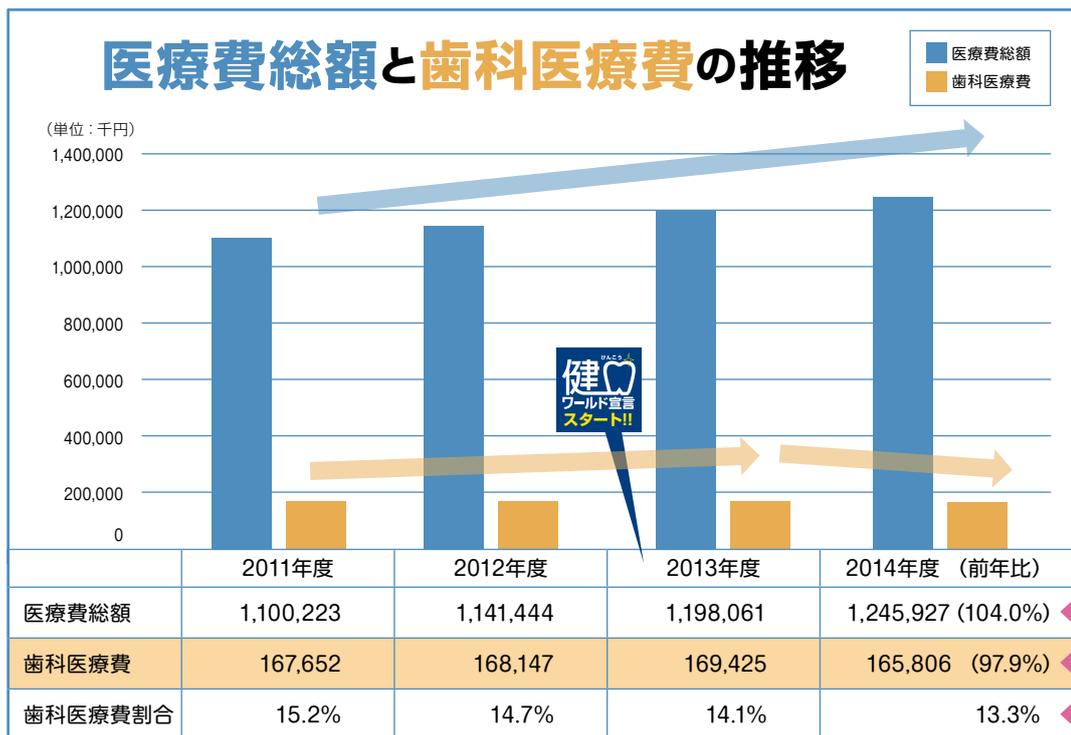




歯科医療費の上昇トレンドに歯止めがかかった！

“健口ワールド宣言” から3年目！！

2013年4月からスタートした歯の健康づくり事業“健口ワールド宣言”
年2回の“健口チャレンジ”の実施、健保だよりや健保HP上での“歯の健康情報”発信、
歯科健診の受診強化等に取り組んでいます。
この2年間の歯科医療費の推移について、ご報告します。



ポイント
医療費総額は右肩上がり。2014年度も伸び続けている。

ポイント
歯科医療費は微増ののち、2014年度に微減。

医療費総額に対する歯科医療費の割合は減少傾向



上がり続けていた歯科医療費のトレンドに変化が出てきたようですね。もう少し、医療費の内訳をみましょう。

◆歯科医療費の内訳◆

2013年度 歯科医療費	
件数	18,797 件
日数	35,384 日
平均被保険者数	16,134 人
金額	169,425 千円
金額/1人	10,501 円



2014年度 歯科医療費	
件数	19,093 件
日数	35,380 日
平均被保険者数	15,862 人
金額	165,806 千円
金額/1人	10,453 円

2014年度歯科医療費については、2013年度より3,619千円減少。左記の内訳から、

- ① 歯科医療費1人あたりの金額が 10,501円⇒10,453円に減少
 - ② 歯科医療費1件あたりの金額が 9,013円⇒8,684円に減少
- という傾向ができています。



早めに歯科医院に通院される方（治療費が安く、通院期間が短い）が増加しているものと思われます。痛みを我慢しきれなくなってから歯科医院に行くと治療費が高く、通院期間が長くなるので、歯科医院は、「痛くなってから行く（治療）」のではなく、「定期的に行く（予防）」を今後も心がけて下さい。

“歯は美と健康の入り口” って知ってる？

むし歯や歯周病になっても、それは口の中だけのことと思っていませんか？
実は『お口』の中の健康は、全身にも大きな影響を及ぼします。
最近では、『病気の入り口』とか『お口の不健康は万病のもと』といわれる
くらいに密接な関係があることが分かってきました。

今回はむし歯、歯周病との
関連性が高いといわれる
代表的な病気の情報です。
ぜひ一読いただき、
皆様ひとりひとりの健康に
お役立てください。



糖尿病

糖尿病で血糖コントロールができていない人は、免疫力や治癒力が低下して歯周病が悪化しやすくなります。
また歯周病の人は炎症を引き起こす物質（サイトカイン）が過剰に作られ、血糖をコントロールするホルモン（インスリン）の働きが低下して、糖尿病を悪化させるなど、歯周病と糖尿病とは、相互に影響する関係にあります。

早産・ 低体重児出産

歯周病になると、炎症を引き起こす物質（サイトカイン）や子宮収縮を促すホルモン（プロスタグランジン）などが過剰に産生されるため、重度の歯周病になっている妊婦さんでは、早産・低体重児出産となることがあります。

動脈硬化

（脳梗塞・狭心症・心筋梗塞など）

歯周病菌が、血液中に入り血管壁に取り付くと、コレステロールに取り囲まれて血管が狭くなり、動脈硬化を起こすことがあります。取り付く場所が、脳血管であれば脳梗塞、心臓の冠動脈であれば狭心症・心筋梗塞に進展します。

むし歯 歯周病が招く コワイ病気

感染性心内膜症

むし歯菌や、歯周病菌が血管内に入り込み、全身の血管に運ばれ、菌が心臓の内膜にとりついて心内膜炎を起こし感染性心内膜炎となることがあります。そのため、人工弁置換術後などの患者は、出血を伴う歯科治療（抜歯、歯石除去）の前には、あらかじめ抗生剤を服用する必要があります。

（米国心臓病協会ガイドライン、
日本循環器学会ガイドライン）

誤嚥性肺炎

歯周病菌などの口の中の細菌を、唾液とともに誤って飲み込むこと（誤嚥）により、肺炎を発症することがあります。特に、飲み込む力が衰えている高齢者、脳血管障害の後遺症で寝たきりの方などに多く発症しています。口の中を清潔に保つことが、誤嚥性肺炎の予防には効果的です。

予防歯科であなたの未来も明るく♪

各事業所での“**歯科健診**”の機会を逃さないで。
“**健康**”は『**歯**』と『**歯ぐき**』が約束してくれます!!

